

経肛門的自動吻合器腸管吻合における縫合不全危険因子に関する研究

1. 研究の対象

2010年1月1日から2019年12月31日までに当院で大腸癌に対して手術を受けた方

2. 研究目的・方法

直腸癌の手術において、手術後におこる合併症のひとつである縫合不全は、その後の局所再発（最初のがんと同じ場所、もしくはごく近くにがんが発生すること）や生存期間と関連する可能性があるといわれています。縫合不全の起こりやすい原因についての研究はこれまでも多く行われており、また予防法なども様々な取り組みが行われていますが、完全な回避は難しいとされています。

当院での縫合不全への取り組みにおいて、どのような原因が存在するか、また今後回避するための方法を探し出すため、大腸癌の手術をされた患者さんのデータを電子カルテから収集・解析し、今後の手術における対策を検討します。

研究期間は病院長承認日から2022年4月30日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

手術時年齢、性別

術前診断、術後病理診断（深達度、リンパ節転移の有無、組織型、脈管侵襲等）

術前血液生化学検査データ（Hb、Alb、CRP、CEA、CA19-9等）

併存症の有無（心血管、呼吸器、糖尿病、慢性腎臓病、抗凝固・抗血小板薬の使用、肝疾患等）

術後90日までの術後合併症の有無（縫合不全、腹腔内膿瘍、Surgical site infection）、合併症のClavien-Dindo分類等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：深澤貴子

磐田市立総合病院 消化器外科 科長

電話：0538-38-5000（代表）